

NO	頁	箇所	内容
	2	第1節 総合計画策定の目的	「平成26年には大型商業施設がオープン」、とあるが、平成27年になり、売上高、来場者数、テナントの状況はどうなっていますか。
	4	1章 ＜第3節＞計画の期間と構成	<p>＜第3節＞計画の期間と評価及び構成・・・「評価」を挿入。 (1) 計画の期間・・・「ただし、5年後に当核計画の進捗状況や国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の結果と反省を勘案し、しかるべき変更・修正を加え、残り5年間で計画完成の精度を向上させます。」を最後尾に挿入。 (理由・・・国から矢継ぎ早に新しい政策が打ち出され、技術的進歩も早い中、市で策定している全ての計画の基本になり、地域づくりの最上位に位置付けられている当核計画が、10年間言いつばなし、書きっぱなしでは市政に停滞を、市民に無力感を生みます。) (2) 計画の評価・・・全文追加。 「計画(重点施策)の評価を数値で評価・点検し、成果の上がらない施策を中止し、支援を一定期間打ち切るなど改善を促しメリハリのある運営を行います。」 (2) 計画の構成・・・(3)に変更</p>
	5	2章 ＜第1節＞とりまく時代潮流	(1) 人口減少社の到来と少子高齢化の進行 「同時に、本市のアドバンテージを積極的にアピールし他地方都市からの移住者数の増加を図ることも重要です。」を最後尾に挿入。
	6	(2) 価値観やライフスタイルの多様化	(将来ビジョンには詳しく記す必要はないかもしれませんが、)ワークライフバランスに係る課題を丁寧に析出し、結婚・出産や雇用と関連づけて立案にあたっていただきたいと存じます。
	10	(6) 情報化社会の革新的な進展による変化	ICT(情報通信技術)を活用し、市民が便利さを実感できるサービスを提供すると記述されていますが、具体的な事例はありますか？また、ICTを活用して学校教材に利用する具体的な計画はありますか？他の一部の地域では、既に実施している学校もあるようですが。
	12	市民アンケート調査結果	今回のアンケートにおいて、市民の実感度が低く、重要度が高かった項目は3項目あり、今後これらを重点的に取り組むとありますが、「実感度が低い」のを取り上げて、「実感度が高い」のを取り上げてないのは何故でしょうか？③の「安心して子育てができる環境が整っている」のも重点的に取り組むべき案件だと思いますが？
	12	第2節 市民の意識(1)市民の実感度	回収率が低いのが残念です。どのような調査方法で、誰を(国籍・年齢の上限など)を対象に実施なさったのでしょうか。 回答した人たちの社会人口学的特徴は、母集団(市民全体)に比べ、違いはありますか。年齢別の分析結果はありますか。
	12	市民アンケート	市民アンケート結果について、29%の回収率ではその回答が統計的に有意であるか否かに疑問を持つ。また、その結果が重点施策に生かされるのは如何とを感じる。

NO	頁	箇所	内容
	14	学生アンケート	桃山学院大学のアンケートについて、和泉市で下宿をしている学生にアンケートを取ったとしても、和泉市に住むことを選択している時点でバイアス(偏向)が掛かっており、その結果は総合計画に掲載するに値するものではないと感じる。
	22	第3章 まちづくりの基本方針	<第1節> 基本的な考え方・・・資料13「和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」第1章基本的な考え方 <第3節>まちづくりの基本方針と同文で、以下のとおり提案します。(省略) <総合戦略NO6の項目と併せて検討します>
	23	第2節まちづくりの視点 (2) 資源をつなぐ	①地域資源とは何か、具体的に ②「つなぐ」具体的な取り組みは
	23	第2節まちづくりの視点 (3) 世代をつなぐ	住んで良かったと思ってもらえるためには、まずその前に住みたいと思ってもらえる事が大事だと思う。「特色ある教育環境の整備」とは具体的にはどのような内容か
	24	第3節 土地利用構想 市の区分について	市内を4つの地域(北部、北西部、中部、南部)に分けて且つ、土地利用構想で6つのゾーン(4次の計画では、5つでしたが)に分けているが、自分達の住んでいるところが、どの地域か又、どのゾーンなのか、市民にはわかりにくい地域があります。中学校区ごとに分けていた、従前の4つの「日常生活圏域」の方が分かりやすいと感じます。この校区ごとで何をやるか、具体的な取り組みや事業を明確にした方が良いと思いますが?
	24	第3節 土地利用構想	新市街地は新興住宅地だけでなく、歴史も有している。表現を見ると、中部地域が新興住宅地だけしかないといった印象に映る。
	26	第4章 将来都市像<第1節> めざす「将来都市像」と「まちづくりの目標」	<第1節> めざす「将来都市像」と「まちづくりの目標」 (2) まちづくりの目標・・・総合戦略と同文です。 <総合戦略NO7の項目と併せて検討します>
	29	めざす都市イメージ (都市環境と自然環境が融合するまち)	「交通をはじめとする都市環境は利便性と安全性の向上が図られ」とあるが、具体的な整備予定について
	29	<第2節>めざす「都市イメージ」(都市環境と自然環境が融合するまち)	・・・アンダーライン部分追加。 交通をはじめとする都市環境は、利便性と安全性の向上が図られ、まちには下水道が整備され、希望する家庭には都市ガスが普及している清潔感とゆとり溢れる居住空間がひろがっています。

NO	頁	箇所	内容
	29	<第2節>めざす「都市イメージ」	全文追加 (変化の実感が少しづつ感じられ、次世代の人たちが期待を持てるまち) 当該市総合計画は10年後にいきなり開花くものではなく、市民一人ひとりが一年一年の努力を積み重ねることで実を結び完成します。 その途上においても、計画が正しい方向に向かって進捗している実感があり、更なる信頼感の醸成に繋がるよう着実な運営を図ります。
	29	<第2節>めざす「都市イメージ」	全文追加 (知名度も上がり市民が誇りを感じるまち) 当市の優位性・魅力を戦略的・積極的に市外に発信し、地法都市の幾つかと提携・連携体制が構築されて、全国規模での知名度・存在感が増しています。
	41	(重点施策04) 地域で安心して子育てができる仕組みづくり	◆地域における子どもの居場所づくり 「地域住民の参画を得ながら…」とあるが、放課後、週末の各活動に地域差がありすぎる。具体例として、放課後活動「げんきっ子プラザ」という制度があるが、実際に立ち上がっているのは12校区で低調のようです。いかに地域住民の参画を求めるか検討の要である。
	43	第2節社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実 【現状と課題】	2. 生きる力につながる学力・体力の向上 ○「学校・家庭・地域」が協働した取組みの推進とありますが、放課後のスポーツ活動でしょうか。また、地域の課題にはどんなものがあるか、具体的に列挙できないのか。 ○和泉市の体力レベルは、全国平均を下回っている。水泳指導、陸上指導等を挙げていますが、最も体力向上に役立つのは、一つのことを「継続する」ことではないでしょうか。
	62	(重点施策16) 外出を容易にする交通機能の充実	今後高齢社会が一層進んでくるが、それを問題として捉えず高齢者による地域貢献、健康増進の観点から、日常的な外出がしやすい交通機能の整備という取組の中で、堺市で取り組んでいる「おでかけ応援バス」(65歳以上の高齢者が運賃を100円払えばどこへでも行くことができる)を和泉市でも導入することを検討できないか。
	65	(重点施策17) 環境負荷の少ない社会システムの構築	「地球環境」の視点が抜け落ちている。和泉市の南部地域、また都市化が進む中でも田園や里山が保存されている北部地域などを考えると環境論は一定大きなウェイトを占める。 Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、足元から行動する)という言葉があるように、一自治体の環境に対する取組みの積み重ねによって地球環境が成り立っていくと考えるので、地球環境、エネルギーの視点を打ち出すべきではないか。
		重点施策の追加	社会問題化している空き家やICTの時代と言われる中で、これらは重点項目、重点施策として捉えて総合計画の中に盛り込む必要があるのではないかと。ICTに関して言えば、ICTを重点項目として、情報基盤ネットワークを基に教育や福祉、医療などに活用するという方針を示すことで和泉独自の施策になるのではないかと。